

科目名	理学療法基礎評価学Ⅰ	担当教員	小林 巧 隈元 庸夫 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	------------	------	-----------------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法専攻	専門科目	選択	2年次	前期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR21E	②					

科目概要	障害像の把握、治療方針の立案および患者の予後予測を行なう上で重要な評価法の中でも、臨床上、評価頻度の高い関節可動域測定と徒手筋力検査法について学習し、科学的な観察力および思考力を身に付けるための基礎とする。具体的には、評価の過程および評価の全体の流れを把握し、四肢・体幹全ての関節の関節可動域および筋力の測定方法について学習し、制限因子や代償動作、日常生活動作との関連について理解を深める。
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 評価の過程および全体の流れを理解することができる。</li> <li>2. 関節可動域測定・徒手筋力測定の測定法を理解することができる。</li> <li>3. 関節可動域の制限因子、筋力低下の要因を理解することができる。</li> <li>4. 関節可動域および筋力とADLの関連を理解することができる。</li> </ol>

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	関節可動域概論	関節可動域測定の目的と方法	関節可動域測定の意義・目的・目標設定・評価の記録の仕方を理解することができる。	
2	関節可動域各論1	上肢の関節可動域測定	上肢の関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域、制限因子、ADLとの関わりについて理解できる。	
3	関節可動域各論2	下肢の関節可動域測定	下肢の関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域、制限因子、ADLとの関わりについて理解できる。	
4	関節可動域各論3	頸部・体幹の関節可動域測定	頸部・体幹の関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域、制限因子、ADLとの関わりについて理解できる。	
5	徒手筋力測定概論	徒手筋力測定の目的と方法	徒手筋力測定の意義・目的・目標設定・評価の記録の仕方を理解することができる。	
6	徒手筋力測定各論1	上肢の徒手筋力測定	上肢の徒手筋力測定の測定法、筋力低下の要因、ADLとの関わりについて理解できる。	
7	徒手筋力測定各論2	下肢の徒手筋力測定	下肢の徒手筋力測定の測定法、筋力低下の要因、ADLとの関わりについて理解できる。	
8	徒手筋力測定各論3	頸部・体幹の徒手筋力測定	頸部・体幹の徒手筋力測定の測定法、筋力低下の要因、ADLとの関わりについて理解できる。	
評価方法		筆記試験（100％）		
課題に対するフィードバック		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。</li> <li>2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。</li> </ol>		
教科図書		隈元庸夫『臨床ROM』ヒューマンプレス、2017年 津山直一・他（訳）『新・徒手筋力検査法 原著第10版』協同医書出版社、2020年		
参考図書		伊藤俊一監修『MMT（頭部・頸部・上肢）第2版』三輪書店、2016年 伊藤俊一監修『MMT（体幹・下肢）第2版』三輪書店、2016年 松澤正・他『理学療法評価学 改訂第6版』金原出版、2018年 奈良勲・他『理学療法検査・測定ガイド 第2版』文光堂、2009年		
学習の準備		<ol style="list-style-type: none"> <li>1（予習）事前に教科書の該当箇所を熟読しておくこと（90分）</li> <li>2（復習）授業で学んだ手技について復習すること（90分）</li> </ol>		

オフィスアワー	月曜日 13:00~14:30、その他在室時はいつでも可能
担当教員欄に※印を 附した教員の実務経 験	